

# INGING

INGINGMOTORSPORT.

CERUMO

# NEWS PAPER

## 2019 Vol.02

INGING MOTORSPORT  
OFFICIAL WEBSITE OF PAPER



# 大波乱の開幕戦。



Race Report

Round.1 SUZUKA CIRCUIT 4/21 Final 決勝 2019年4月21日 鈴鹿サーキット

NEXT RACE ▶▶▶▶▶▶▶▶  
ROUND2. AUTO POLIS 5/18-19

TAKE FREE Support by © cyber net  
株式会社 サイバーネット

# 坪井が華々しいデビューを飾る

**Race Report**  
**Round.1 SUZUKA CIRCUIT 4/21 Final**  
**決勝 2019年4月21日 鈴鹿サーキット**  
 天候:晴れ/コース状況:ドライ/Time [1:28'10.522]

**Results**

#38	石浦	リタイヤ
#39	坪井	5位



決勝は、午後2時にスタート。気温は、25度、路面温度は、37度まで上がった。この気温、路面温度は、テスト走行していない領域である。スターティンググリッドに並んだ20台は、7台がソフトタイヤを選択、その1台は、38号車石浦。坪井はミディアムタイヤを装着しグリッドについた。14番グリッドからスタートした石浦は、快調にオープニングラップから11位、3周目に10位、5周目に9位、8周目で6位まで上がった。しかし、他車のクラッシュによりその時点で1度目のセーフティカーが導入された。坪井は、18番グリッドから16位と2つポジションを上げた矢先だった。セーフティカーラン中、コースにステイアウトしたライバルの2台を残し、一斉にピットインした。GERUMO-INGINGの2台も勝負権がなくなるのを避けピットイン。先に石浦、その後坪井がピット作業を行った。タイヤは、石浦がソフトからミディアム、坪井は、ミディアムからソフトへ交換しピットアウト。12周目にレースが再開した。14周目、再びコース上で他車のトラブルが発生、15周目に2度目のセーフティカーが導入された。この時点で、ミディアムタイヤでペースが落ちてしまわず、残念ながら15周目で戦線離脱となった。レースは、18周目に再開し、坪井は9位で走行していたものの、他車のトラブルにより3度目のセーフティカーが導入された。この時点で、コース上のクルマは13台のみ。坪井の順位は8位。22周目でレースが再開すると、坪井はタイヤを効りながらも快調な走りを見せる。ペースも、1分44秒台を乱さず安定し周回を重ねる。27周目に再びアクシデントが発生、決勝セクション中、とうとう4度目のセーフティカーが入った。この上なく荒れた展開の中、気づけば坪井は7位。その後、32周目でレースが再開すると、坪井は後続が仕掛けて来る。しかし、坪井は集中力を切らすことなくオーバーテイクシステムを使い、追従を許さない。最終的に、上位のクルマが最終ラップでピットインし後退、そしてまた別のクルマにペナルティが出て、その影響で2つポジションアップ、5位でフィニッシュ、デビュー戦を人賞で終えた。新型車両の戦いは、非常に荒れた展開となったが、新しいタイヤの使い方、それを活かした戦略など、今後のシリーズへ活かせるものが豊富にあった。なかなか積み切れていないクルマの戦略は、まだまだ続くが、リタイアとなってしまった石浦の痛手も無駄にしないようシーズンを戦って行きたい。次戦は、5月18日(土)、19日(日)九州オートボリス(大分県日田市)で行われる。

昨日の予選が予選だったので、ノープレッシャーでスタートできました。スーパーフォーミュラでのスタートも初めて、長距離も初めてのレースで、どうなることやらと心配して臨んだレースでした。しかし、ひとつでも順位を上げることを考えました。ミディアムタイヤでスタートしましたがペースがあがらず、ピットに入りたいと思っていた所で、SCが導入されました。そのタイミングでタイヤを交換できたのが、大きかったです。一斉にピットインしたクルマが多く、先に石浦選手を行かせ、待っていましたが、その間のロスは大きかったように思います。あれがなければもう少しいいのかなと思います。自力でも何か抜きましたし、タイヤも余力を残しておけば後続が来ても大丈夫だったので、開幕戦は合格点を自分にあげたいと思います。順位に関しては、他が脱落して行ったりもあり、良い決勝になりました。



## 38 石浦 宏明

スタート前からセーフティカーのリスクがあるという事はわかっていましたが、ソフトの方が調子が良かったので、ソフトでのスタートを選択しました。序盤、何かオーバーテイク、実質5、6番手まで行き、あの瞬間までは順調でしたがセーフティカーが入ってしまいました。この時点でピットに入らないと終わるのでピットインしました。残りがミディアムになってしまった為、もう一回SCが入った時点でソフトに戻しました。しかし、ピットアウトする際にギアが壊れて終了となってしまいました。今回のレースを、今後のレース戦略に生かしてまた頑張ります。



## 監督 立川 祐路

荒れたレースの中、後方から高い上げの決勝となりました。まず石浦の方は、得意のソフトタイヤでレースを引く作戦にしました。しかし、思いの外、最初にセーフティカーが導入されてしまいました。ここでピットに入るまいという選択はないので、タイヤを交換するを得ないりました。その為、ソフトタイヤを捨てたことになり、セーフティカーが入った時点で、石浦にとっては不利になりました。2度目のセーフティカーが入り、またソフトに戻しましたが、ピットアウトの際にギアのトラブルが出てレースが終了してしまいました。坪井の方は、ミディアムスタートだったので、流利的にとても良い展開となりました。新人ながらも展開にレースを運び、後からフレッシュタイヤを履いたクルマが来てもしっかりされたので、とても頑張ったと思います。